

年度	事業沿革	主な活動	主な提言・指針・報告書
2001年度	厚生科学研究の研究協力者会議として、48病院で開始		
2002年度		● 機関誌「患者安全推進ジャーナル」創刊	
2003年度	認定病院患者安全推進事業として評価機構内で事業開始(550病院参加) 提言・指針の取りまとめ配信開始		緊急提言「アンプル型高濃度カリウム製剤の病棟および外来在庫の廃止 10%キシロカインの病棟および外来在庫の廃止」 提言「中心静脈穿刺時の患者安全確保について」
2004年度			緊急提言(改訂版)「アンプル型高濃度カリウム製剤の病棟および外来在庫の廃止 10%キシロカインの病棟および外来在庫の廃止」 提言「医療ガス使用時の安全確保に関して」 提言「抗がん剤投与に関わる情報の共有化」 指針「中心静脈カテーテル挿入(CVC)に関する指針」
2005年度	会員病院数が認定病院の6割に当たる1,070病院を突破 ● 研修「医療コンフリクト・マネジメントセミナー」開始(2013年度より医療対話推進者養成セミナーへ移行)	● ジャーナル別冊「KYTトレーニングブック」	提言「人工呼吸器回路の接続外れ事故の防止について」 提言「誤認手術の防止について」 提言「経鼻栄養チューブ挿入の安全確保」 指針「医療記録の記載指針 V.6.0」
2006年度		● ジャーナル別冊「感染管理に関するツール集」 ● ポスター「精神科における転倒・転落事故のリスクファクター」	指針「病院における医療安全管理の位置付けとその組織体制のあり方に関する指針」
2007年度	あらたに患者安全推進全体フォーラム・地域フォーラムを開催	● ポスター「末梢静脈穿刺の安全対策」(患者向け) ● 報告「患者安全に係る病院システムのトラブル集」 ● 「医薬品知識確認問題」ジャーナル連載開始	提言「チューブ類挿入患者の自己(事故)除去防止対策」 提言「病院内における自殺予防」 指針(改訂版)「中心静脈カテーテル挿入(CVC)に関する指針」 報告書「持参薬に関する報告書」
2008年度		● ジャーナル別冊「感染管理に関するツール集 療養病床・精神病床編」	
2009年度	● 研修「CVC研修会」開始	● ジャーナル別冊「医療コンフリクト・マネジメントの考え方」	
2010年度	● 研修「院内自殺の予防と事後対応のための研修会」開始	● ジャーナル別冊「病院内の自殺対策のすすめ方」 ● 動画「口頭指示・SBAR使用例」 ● カレンダー「医師と私の指示受け10の約束」	
2011年度	評価機構の公益財団法人化に伴い認定病院患者安全推進事業運営委員会を設置	● 報告「患者安全に係る病院システムのトラブル集」	
2012年度		● 動画「WHO手術安全チェックリストにまつわる教育動画」	提言「侵襲的な検査での誤認防止について」
2013年度			報告書「救急カートの薬剤管理」
2014年度		● ジャーナル別冊「患者安全推進に生かす10の管轄的事例」 ● 動画「患者の移乗に関する教育動画」	提言「生体情報モニターのアラームに関連する医療事故防止について」 報告書「感染管理ピアレビュー実施の手引き」
2015年度	新規部会「施設・環境・設備安全部会」を設置	● ホームページリニューアル	
2016年度		● ジャーナル別冊「転倒・転落のリスクマネジメント」	
2017年度	● 「おひとりさま(ワンオペ)医療安全応援プロジェクト」開始	● 「物的環境に関連するインシデント・アクシデント事例集」検索システム運用開始	提言「院内自殺の予防と事後対応」
2018年度		● ジャーナル別冊「高齢患者のリスクマネジメント」 ● 転倒・転落予防に関する標語の募集・優秀作品発表の開始	
2019年度	● 「ポジティブアプローチワークショップ」開始		報告書「手術および侵襲的検査・処置前に中止が必要な薬剤の安全な取り扱い」
2020年度	オンラインセミナーの開始	● ジャーナル別冊「医療安全実践キーワード2020」 ● ホームページに動画ページを新設「教育動画」「オンラインセミナー(アーカイブ配信)」を公開	指針「中心静脈カテーテル挿入・管理に関する指針(改訂第3版2020)」 報告書「投薬プロセスにおける安全対策—アレルギーや副作用の情報共有と対策」 報告書「画像(CT)診断レポートの確認 患者を守る「5つの取り組み」の提案」
2021年度	設立20周年	● 地域フォーラムをオンラインで開催	
2022年度	会員病院数 1,307病院(認定病院の64.7%)	● 教育テキスト「処置時の安全な鎮静 第2版」(電子版)を一般公開 ● ジャーナル別冊「医療安全管理者のための実務ガイドブック」 ● ジャーナル別冊「病院内の自殺対策のすすめ方 改訂版」	

2024.02

認定病院患者安全推進協議会 活動案内

3つの特徴

1

現場目線の情報共有の場

協議会の活動は、現場に始まり現場に終わります。
病院から発信される悩みや課題のひとつひとつが、活動の始まりです。
これらの現場の声の集まりこそ、私たち協議会の最大の魅力です。

2

全国の会員病院ネットワーク

協議会のネットワークは全国に広がっています。
活動に参加することは、他の病院の取り組みを学ぶだけでなく、
自院の取り組みを広くアピールするチャンスでもあります。
ぜひこのネットワークを活かして、院内の医療安全活動の
活性化に役立ててください。

3

日本の医療安全文化の醸成

現場の声が活動を生み、それらが日本の医療安全を動かす
大きなうねりとなります。
協議会はこれまででも、高濃度カリウム製剤の保管管理や
CVC手技における安全確保等、
日本の医療安全の文化醸成において多大な役割を果たしてきました。



ホームページ
<https://www.psp-jq.jcqh.or.jp/>



X (旧 Twitter)
https://twitter.com/PSP_JQ

医療への信頼を揺るがないものに

お問い合わせ

公益財団法人 日本医療機能評価機構 教育研修事業部 認定病院患者安全推進課
TEL. 03-5217-2373 (直通) FAX. 03-5217-2331 (直通)
E-mail. p0031_info_psp_office@jcqh.or.jp URL. <https://www.psp-jq.jcqh.or.jp/>

公益財団法人 日本医療機能評価機構
認定病院患者安全推進協議会

患者安全の実現に向けて

「認定病院患者安全推進協議会」は、病院機能評価の認定を取得した病院の有志が主体となり、患者安全の推進を目的として2001年4月に組織化されました。

これまで、患者安全に関して緊急性の高い課題に応じた部会等を設置し種々の検討を行うとともに、患者安全推進ジャーナルを発行するなどの活動を通じて、全国の病院における患者安全の推進に寄与してきました。

患者安全の源流

認定病院患者安全推進協議会は、患者安全の推進という基本理念のもとに集まった病院の主体的な活動に拠り、2001年の発足以来、常に現場の安全活動を牽引する役割を果たしてきた。

協議会では、我こそは、と集まったメンバーが職種や所属する病院を越えて議論を交わす。そこで生まれたアイデアは数多くのマテリアルとして結実し、関わった個々の医療者にも多くの気づきを与え、現場の患者安全の活性化につながっている。

現場の声と熱意こそが我々の活動の原動力である。是非とも多くの病院にご参加いただきたい。

日本医療機能評価機構 常務理事 橋本 迪生



会員病院の声

「会員病院の声」をもとに、協議会として活動目標を設定します。

協議会では、アンケート調査の実施やセミナーの開催を通じて、会員病院の皆さんが日ごろの業務の中で悩んでいることや課題に感じていることを抽出し、目標やテーマを設定します。そして、会員病院から選ばれたメンバーが部会や検討会等を組織し、活動計画を立て事業化しています。

これまでに投薬プロセス、術後の引き継ぎ、物的環境の安全、おひとりさま医療安全管理者の働き方、チーム医療などをテーマに掲げ、医療安全に関わる様々な話題をタイムリーに取り上げてきました。



▲ 2022年度以降は感染対策に配慮しながら集合型の研修会を開催しています

部会活動

活動目標の達成を目指して、「部会活動」を通じて議論を重ねます。

目標やテーマに応じて、部会・検討会を組織し議論を重ねます。それぞれの部会・検討会は現場の最前線で活躍している方々とその分野に造詣の深い有識者により構成されています。

部会・検討会では、全国の会員病院と協力し、現場に必要な情報や情報交換の場の提供を目指して議論を重ね、セミナーの企画や提言などの取りまとめを行っています。



▲ 2020年度より部会はオンライン中心で開催しており、全国各地の部会員が参加しています

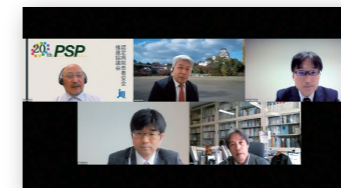
還元

活動成果を、全国の会員病院の皆さんに「還元」します。

フォーラム・セミナーの開催

医療現場において取り組むべき喫緊の課題をテーマに掲げ、講演やパネルディスカッションを行い、考察を深めています。参加者は多くの実践例や考え方・視点を持ち帰り、それぞれの現場での医療安全の推進に役立てています。2020年度からはオンライン方式のセミナーも開催しています。

- 地域フォーラム、全体フォーラム
- セミナー（部会ごと）



研修会（有料）の開催

教育研修の機会として、特定の分野に特化した演習・実習の集中プログラムを提供しています。

単に専門知識や技術を修得していただくだけでなく、グループディスカッション等を通じ、院内で横断的に活躍する人材育成の役割も果たしています。

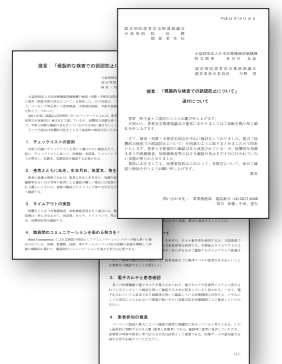
- 院内自殺の予防と事後対応のための研修会
- チーム医療研修会



提言・指針・報告書の発信

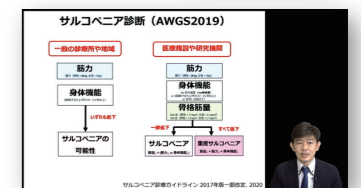
部会・検討会での検討や会員病院へのアンケート等を通じて見てきたことや、全国の病院や医療者が知っておくべき情報、警鐘的な事例を「提言」「指針」「報告書」としてまとめ、情報発信を行っています。

全国の会員病院が、取り組みを一斉に見直す機会にもなっています。



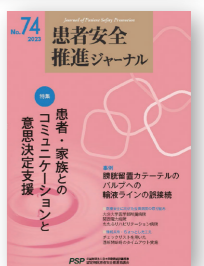
動画配信

医療安全において重要なテーマを各分野の専門家が解説する「教育動画」や、開催したセミナーの動画をホームページでアーカイブ配信しています。医療安全の研修や職員の学習に活用いただいています。



患者安全推進ジャーナル（年4回発行）

毎月、現場の方々から高いニーズのあるテーマを独自に企画し、特集記事として取り上げています。また、各部会・検討会で議論されたテーマや、続発する類似事故事例の考察等を通じ、時勢を踏まえた医療安全のヒントを提供します。



私たちは推薦します

国立大学法人電気通信大学
産学官連携センター 特任教授

田中 健次



安全の仕組みと共に人の能力アップの仕掛けを医療機器の自動化やシステム化の仕組み導入による確実な作業が進む中、使用者による正しい活用や能力アップを促進する仕掛け作りも重要である。そのためには医療施設の規模、作業内容、使用者の経験を踏まえ、各施設の現状に見合った作り込みが必要になる。他組織での試みや良好事例を知り、専門家からアドバイスを受けることのできる協議会の活動は、その実現に極めて効果的な場であり、積極的な参加を期待したい。

旭川赤十字病院
院長

牧野 憲一



仲間から学ぶ患者安全

私は約10年間協議会活動に参加してきた。協議会は提言を含めて多くの情報を発信しているが、現場目線から外れることなく一歩先を行く患者安全の在り方を示している。また、セミナーでは普段は交流する機会のない全国各地からの同じ問題を抱える人と議論したり、先進事例の情報を得たりと明日からの患者安全活動に有用であり、是非とも多くの医療従事者に参加していただきたい。

医療法人徳洲会
看護部長

湘南厚木病院

増田 伊佐世



全国の仲間とともに患者安全文化を

患者安全への取り組みにゴールはなく、医療の進歩とともに新たな安全上の問題や倫理的な課題が生じる。自施設だけの課題解決には限界があり、認定病院の様々な取り組みを知ることで新たな知見を得ることができる。患者と自分自身を守るため、職員個々が患者安全を自己の課題と認識することが必要である。協議会から発信される安全情報を共有し、笑顔で安全な医療の提供に取り組んでいきましょう。

岡山協立病院 医療安全管理部
専従リスクマネージャー

佐藤 恭江



全国の仲間の活動をエネルギーにして

医療安全の活動は、課題の対応に追われて時に息切れしそうになるが、患者安全推進ジャーナルの記事を読めば再びパワーを充電できる。全国で前向きに頑張っている仲間からのエールのようだ。全く違う視点の取り組み紹介もあり、とても参考になる。これも協働の取り組みなのだろう。皆さまも、様々な情報を共有して一緒に頑張っていきたい。